

家庭や地域でできる防災対策

風水害や地震などから、大切な家族を守るために

平成19年7月、梅雨前線の影響により、県内各地では記録的な豪雨となりました。

この豪雨の影響で、緑川では氾濫（はんらん）危険水位を47センチ超えて観測史上最高の5・07メートルを観測し、本町においても多くの建物が浸水するなど、大きな被害が発生しました。

これからの季節は、このような大雨や洪水、土砂災害などに特に注意する必要があります。同じく、台風が来る季節も間近ですので、風水害に対して警戒する必要があります。

日ごろから防災に対する意識を高め、しっかりと準備しておくことが、自分自身と大切な家族を守ることに繋がります。

■災害に対する備え

皆さんのご家庭では、災害に対して何か備えをしていますか。「準備しなくては…」と思いついても、ついつい先延ばしになっていませんか。

災害に備えて、次の3つのポ

イントを確認しましょう。

●避難場所を確認しよう

家族全員で、避難場所を確認しておきましょう。避難するときは、安全な避難経路を通ることも大切です。

土砂崩れが起きやすいなどの危険箇所も合わせて確認し、安全に避難できる道順も決めておきましょう。

【注意！土砂災害の前触れ】

- ・山鳴りがする
- ・川の流れが濁り、流木が混ざり始める
- ・雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- ・斜面から水が噴き出す
- ・地面にひび割れができる
- ・池や井戸の水が濁る
- ・小石がばらばらと落ちてくる
- ・がけに亀裂ができる
- ・がけから濁り水が湧いてくる

●家の補強をしましょう

台風ときにはむやみに外出すると危険なため、事前に家の

補強をしておきましょう。

雨戸はきちんと締まるか、瓦が外れていないかなど、もう一度確認しておきましょう。また、屋外に植木鉢などの飛んできやすいものがあると危険です。

●非常持出品を準備しよう

なぜ非常持出品の準備が必要なのか、ここで改めて確認して

みましょう。

平成16年10月の新潟県中越地震や平成23年3月の東日本大震災では、自宅に物資を蓄えていても激しい余震のために取りに行くことができず、食料が不足する状況が続きました。

このような大規模地震に限らず、災害が発生した場合は道路やライフラインが寸断されて、

物資や情報の流通が途絶え、地域が孤立してしまう恐れがあります。特に災害発生直後は、公

的機関による支援体制が整うまでしばらく時間が掛かることが予想されるため、各家庭や地域で、最低限必要な水や食料などを備えておくことが重要です。

もう一度、家族や地域みんなで持出品を確認しましょう。

地域ぐるみで力を合わせて日ごろから災害に備えましょう！

町くらし安全推進室
清水 明室長



大きな災害が発生したとき、交通が寸断されたり、ライフラインが不通になったりして連絡も難しくなります。同時に、消防や警察などの救助機関も被災して、直ちに対応できないことも予想されます。そんなとき、最も頼りになるのが、隣近所の助け合いです。

この助け合いを地域で組織化したのが、「自主防災組織」です。この「自主防災組織」とは、「自分たちの地域は、自分たちで守る」という共通の目的を持って、災害が発生したときに、消防などの救助機関が到着するまでの間、地域の人たちが協力しながら人命救助や初期消火活動をして被害を最小限にとどめるもので、過去の大災害時に大きな力を発揮しています。

町民の皆さん、いつやってくるかわからない災害に、地域ぐるみで備えましょう。

非常持出品を確認しよう！～いざというときに必要なものは？

1次持出品（避難時に持ち出したい物品）

貴重品



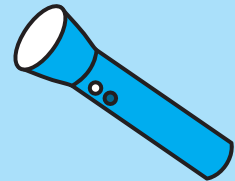
現金、預金通帳、運転免許証、印かんなど

情報手段



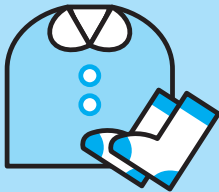
携帯ラジオ、携帯電話、防災行政無線受信機など

照明用具



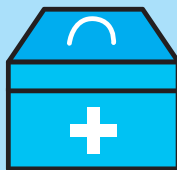
懐中電灯、ろうそくなど

衣類



下着、靴下、上着、タオル、紙おむつなど

救急医薬品



ばんそうこう、傷薬、包帯、常備薬など

非常食品



飲み水(1人1日3ℓ・3日分)、乾パン、缶詰など

2次持出品（避難後、復旧までの生活物資）

食料品



米(レトルトなど)、缶詰、レトルトのおかずなど

飲料水



ポリタンクなどでストックし、飲むときは煮沸する。

燃料



卓上コンロ、固形燃料など

災害発生後の2次被害などを防ぐためには、安全な場所に避難することが大切です。避難するときは、避難場所での生活や行動のために最低限必要な物（非常持出品）を持ち出せるように、日ごろから非常持出品に入れて準備しましょう。

非常持出品は、非常時にすぐ持ち出せる場所に備えておきましょう。非常持出品は避難のときに支障が出ないように、重さの目安として、男性で15kg、女性で10kgにまとめることが大切です。荷物は最小限にまとめて、リュックサックなど両手が使え、背負い式の袋に入れておきましょう。

避難のときに持ち出す非常食品は3日分が目安とされ、飲み水は1人あたり1日3ℓ（3日分で9ℓ）が必要とされています。家族一人ひとりが持てるように準備しておきましょう。また、保存期間を常に確認しておかないと、いざというときに役に立ちません。ペットボトルの水は軽くて持ち運びが便利なのが利点で、スチール缶の水は重いですが、丈夫で保存期間が長いのが利点です。状況に応じて持ち出しましょう。

また、事前に避難場所を確認して、避難場所に応じた必要な物を準備することも大切です。